

**平成29年度 被災者支援総合交付金 「心の復興」事業（第2回募集分）
交付可能額（団体別）**

No.	事業名	提案団体名	取組内容	対象地域	交付可能額(千円)
1	困難を抱え孤立する被災者の文化活動を通じた生きがいつくりと交流事業によるコミュニティづくり	特定非営利活動法人マザーリンク・ジャパン	被災し困難を抱えるようになった子育て世帯の孤立の解決と当事者や年配者の生きがいつくり、外部ボランティアを巻き込んだ風化防止の3点を目的とする。モノづくりや音楽体験、交流会などを通して子育て世代とそれを支えようという地域住民が集える居場所を作り、心を癒せるコミュニティをつくり、心の復興に繋げる。地元住民や地域外の人にもボランティアで参加して貰えるようにすることで、風化を防ぐことにも繋げたい。	岩手県陸前高田市、大船渡市、宮城県気仙沼市	6,760
2	東日本大震災からの復興のための移動コミュニティバス事業	一般社団法人チーム王冠	津波の被害が甚大な地域で、被災した住宅に住み続けている「自宅避難者」(在宅被災者)が、仮設住宅の入居人数に匹敵する規模で存在する。在宅被災者のいる地域の多くは、町内会の人的資産、建造物資産も失っていることが多く、地域内だけでの支えあいが機能しにくい状況下にある。こういった集える場所がなくコミュニティが再生しにくい地域は、被災地域に数多く点在する。また、被災家屋の修繕の進捗状況は個別の事情によって様々で格差が生まれ、心理的に自由な往来が難しい現状がある。そこで、移動できるコミュニティルームを持っていくことで、交流のきっかけ作りを積極的に行い、心の復興を後押ししたい。	宮城県石巻市、東松島市、女川町、山元町、亘理町	7,888
3	みんなの街はみんなが創る！ともい(共育)プロジェクト	一般社団法人プレーワーカーズ	被災者が主体的に話し合う場を創出し、復興に向けた街づくりを「じぶんごと化」していく文化を作る。また「じぶんごと化」した様々な年齢や属性の地域におけるリーダーの発見発掘を行う。 1、被災した仮設・公営住宅・みなし住宅・移住者・地域住民向けの座談会及びヒアリングを行う。 2、声を拾いづらいうちの子育て世帯・障がいを持つ子どもや親等の座談会及びヒアリングを行う。 3、座談会及びヒアリングの内容を隔月に一度ニュースレターを発行する。 4、座談会及びヒアリング・ニュースレターを元に被災地の様々な声を載せた冊子を発行する。	宮城県気仙沼市、石巻市、七ヶ浜町	3,500
4	人が輝く地域コミュニティ活性化事業	特定非営利活動法人ワーカーズコープ	陸前高田市は仮設住宅から災害公営住宅への移転、自立再建に向けた移行期にある。そうした中でのコミュニティの形成のために、高齢者や社会的困難を抱えた人たちが新たな復興の担い手として力を発揮できる「共に支え合うコミュニティ」づくりを目指す。特に「元気高齢者」を中心とした「共生の居場所」づくりを目的とし、元気高齢者が主体となるサロンや講座、農作業(収穫祭イベント等)を実施する。また、農福連携を軸とし孤立しがちな人の居場所づくりを行う。	岩手県陸前高田市	2,500
5	参加・体験型イベントによる「心と体の健康」支援事業	一般社団法人PSJ	宮城県及び岩手県を中心とした広域地域での、心と身体への健康プログラム／参加・体験型イベント実施において、企画・準備段階から被災地域の住民の参画を促し協力して運営すること、また、イベントの定期的な開催によって、子どもから高齢者まで広範囲にわたる参加者の生きがい作りや、世代間交流によるコミュニティのより一層の再生・創出に寄与する。	宮城県石巻市・登米市及び岩手県内等の広域	3,190
6	マカナ ～メカハウオリからの贈りもの～	メカハウオリ	仮設住宅で閉じこもりな方々を対象にフラダンスの体験会や地域住民を招いた発表会を開催し、フラダンスを通して再び生きがいを感じてもらう。また、被災者自身が習ったフラダンスをそれぞれの地域で広める活動を通して、外に出るきっかけや地域住民との交流の機会が生まれる。	福島県福島市	2,048
7	人と人 町と町の輪が紡ぐ交流発信プロジェクト	ナラノハ	地域の魅力の発信、県外避難者との交流を目的としたイベントを首都圏で開催。地域の新しい特産品の発信やマーケティング、郷土料理・文化を活用したものづくりワークショップ、地域の現状を映像で伝えるシンポジウム等を実施。隣接している宮城県沿岸部の地域とも連携し、被災地域間の交流による新たな町づくり創出の場としても機能させていく。	福島県双葉郡檜葉町、首都圏、宮城県 他	1,244

No.	事業名	提案団体名	取組内容	対象地域	交付可能額(千円)
8	東日本復興支援プロジェクト ハンド・イン・ハンドコンサート	プロジェクト ハンド・イン・ハンド	「合唱」を通じた、教育プログラムと交流プログラムにより、東日本大震災の記憶の風化防止や被災地の地域活性化の取り組みとして被災地の高校生を中心に演奏会を行っている。自らも被災した学生たちが、同じ境遇の隣県の学生たちとの交流、情報交換、合同練習や演奏会に取り組むことで、「心の復興」を目指す。また、今も仮設住宅や被災公団住宅で生活する方々、被災地の方々を練習や演奏会に招待し、皆が一丸となって参加できる演奏会を通してお互いの「心の復興」を目指す。	宮城県	4,252
9	被災者と多様な主体による持続可能なまちづくりを通じた心の復興事業	一般社団法人 SAVE TAKATA	被災者は数回にわたるコミュニティの分裂を経験しており、被災者によるまちづくり会議が自然発生的に行われてきたが、まちづくりに反映することが難しく、悔しさを抱えている。市街地においては当初計画よりも出店者が減少し、にぎわいの低下が危惧されている。そこで本事業を通して当法人が調整役となり、被災地陸前高田市において様々な主体が同じ未来像を持ち、まちづくりの自分事化・市民参画を促進し、かつ具体的な活動につなげることで、コミュニティの再生とやりがい・生きがいの醸成だけでなく、被災者相互の信頼関係の構築を通じた持続・波及的な心の復興を達成する。	岩手県陸前高田市	3,146
10	『地域食堂』による地域コミュニティの再生と地域間交流事業	一般社団法人ワタマスマイル	本事業では、当団体が活動している石巻市東部地区の子どもから高齢者まで幅広い世代や従来からの住民と復興公営住宅などへ新しく移り住んだ住民との『交流の場づくり』や『地域とのつながりづくり』、さらに『新しいコミュニティ形成』に結び付けていくことを目的とした『地域食堂』を週1回開催していく。さらに、同じように被災者のコミュニティ支援を行っている福島県二本松市のNPO団体や山形県山形市で福島からの原発避難者を支援している団体などと連携し、地域住民同士の交流の機会を提供し、互いに交流を深め元気になり、各地域での地域づくりやコミュニティ形成に結び付けていく。	宮城県石巻市、山形県山形市、福島県二本松市	3,498
11	広野原笑顔サンサンプロジェクト	特定非営利活動法人 広野わいわいプロジェクト	避難生活が長期化したことにより避難先でのコミュニティ形成が進んだ中での帰還とあって、帰還先でのコミュニティに馴染めず、高齢者の多くは行動範囲が狭まり、地域交流にも積極的に参加できず、引き籠り的な生活を余儀なくされている。このような課題を本事業は、広野わいわいプロジェクトが取り組んでいるオーガニックコットン栽培、ひろの防災緑地の樹木管理、耕作放棄地を利活用した「笑顔サンサン農園」での農作物栽培などに参加して頂き、出来た農産物などを地域の賑わい創出イベント「ひろのパークフェス」での販売や外部支援者のボランティアツアー交流会などに料理の食材として提供するなど、帰還者の生き甲斐創りや地域等交流の促進を目的とする。	福島県双葉郡広野町(広野原団地、大平未来団地 他)	3,295
12	被災住民と外国人就労者の交流による心の復興事業	特定非営利活動法人ガバチョ・プロジェクト	釜石地域ではアジアを中心とした多くの外国人就労者が来ているが、言語の壁もあり、地域住民と触れ合う機会が少ない。そのため、打楽器などの技能・言語・年齢を問わずに参加できる楽器を用いて、地域住民が外国人就労者とコミュニケーションをとる機会を音楽とITによって創出することにより、被災地域に暮らす双方にとっての心の復興に繋げる。また、被災者自身が音楽イベントを主体的に開催できるようイベントのファシリテーター自体を本事業で育成し、被災者が今後も継続していけるような取組みとする。	岩手県釜石市	3,428